

切除不能進行・再発胃癌における臨床病理学的特徴の検討について

市立福知山市民病院 消化器内科では、胃癌患者様における臨床経過に関する後ろ向き調査に関する研究を実施いたします。そのため、過去に当院で上記診断を受けられた患者様の診療録を過去にさかのぼって調査させていただきたいと考えています。実施にあたり市立福知山市民病院倫理委員会の承認を受けています。

・研究の目的

切除不能進行・再発胃癌に対する治療法の進歩により、高い腫瘍縮小効果を実現できる化学療法も開発されています。しかし、現時点では、化学療法による完全治癒は困難であり、癌の進行に伴う臨床症状の改善や生存期間の延長が当面の治療目標となります。本研究では当院で胃癌と診断された患者様の各種治療法(無治療経過観察含む)、またそれらの臨床経過を検討します。本研究により、今後の胃癌に対する診断や治療方針の決定に一助となる新しい知見が得られることが期待されます。また、胃癌の診断には胃カメラ、CT、MRIなどの画像検査や、組織検査を行います。画像検査による原発巣や転移巣の詳細な評価や、病理学的評価による悪性度の評価が、治療を行う上で重要な情報となりますので、これらの情報を統合的に解析します。これらの解析により、今後の胃癌診療における重要な知見を見出すことを目標とします。

・研究の方法

対象となる方について

2009年4月1日から2020年3月31日までの期間に市立福知山市民病院消化器内科にて診断・初回治療を行なった胃癌の患者様が対象となります。

研究期間：市立福知山市民病院倫理委員会承認後～2022年12月31日までの期間

方法

カルテ上の記録を調べ、性別、年齢などの臨床情報、治療経過などを集計し、治療内容が生存期間に及ぼす影響について調べます。

研究に用いる試料・情報について

情報：性別、年齢、身体情報(身長、体重、PSなど)、病歴、治療歴、家族歴、併存疾患、既往歴、嗜好歴、血液検査結果(血算、生化学など)、エコー/CT/MRI/内視鏡写真などの画像情報

・個人情報の取り扱いについて

患者さんの血液や画像、測定結果、カルテ情報をこの研究に使用する際は、氏名、生年月日などの患者さんを直ちに特定できる情報は削除し、研究用の番号を付けて取り扱います。患者さんと研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、インターネットに接続できないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、入室が管理されており、第三者が立ち入ることができません。

また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、患者さんが特定できる情報を使用することはありません。

なお、この研究で得られた情報は研究責任者(市立福知山市民病院 消化器内科 医師 奥田隆史)の責任の下、厳重な管理を行い、患者さんの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

・研究組織

市立福知山市民病院 消化器内科 医長 奥田隆史

・お問い合わせ先

患者さんのご希望があれば参加して下さった方々の個人情報の保護や、研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画及び実施方法についての資料を入手又は閲覧することができますので、希望される場合はお申し出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2021年5月31日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。ただし、同意を取り消した時点で既に研究結果が学会や論文などで公表されている場合など、廃棄することができない場合があります。

連絡先

市立福知山市民病院 消化器内科
職・氏名 副診療部長・奥田隆史

電話:平日 9:00-17:00 0773-22-2101